

ルールの一部改訂に伴い、ルールブックの改訂を行いました。

今回の主な改訂については以下のとおりです。

日本ファミリーバドミントン協会競技規則

第8章 ト ス

第19条 両サイドは、プレーを始める前にトスを行い、トスに勝ったサイドがサーブ権またはコートの中からどちらかを選択することができる。トスに負けたサイドは、選択されなかった方を選ぶことができる。



両サイドは、プレーを始める前にトスを行い、トスに勝ったサイドがサーブ権またはコートのエンドの中からどちらかを選択することができる。トスに負けたサイドは、選択されなかった方を選ぶことができる。

第10章 スコア

第24条 試合は、2セット先取の3セットマッチで行う。



試合は、1セット15点2セット先取の3セットマッチで行う。
または、時間制（以下、タイムアップ制）を導入することもできる。

第26条 15点を先取したサイドが、そのセットでの勝者となる。セットの勝者は、次のセットで最初のサーブ権を得る。



15点を先取したサイドが、そのセットでの勝者となる。セットの勝者は、次のセットで最初のサーブ権を得る。

タイムアップ制の場合は、ラリー中であっても設定時間が経過した時点でラリーを止め、そのセットを終了とし、得点の多いサイドがそのセットの勝者となる。同点の時はそのまま同点とし、そのセットを終了とする。
同点でセットを終えた時は、前セット開始時のレシーブサイドがサーブ権を得る。

第11章 コートの交替 → エンドの交替

第30条 プレーヤーは、次の場合にコートを変える。

↓

プレーヤーは、次の場合にエンドを変える。

第31条 前条の規定どおりにコートを変えなかった場合は、気が付き次第、すみやかにコートを後退し、スコアはそのままとする。

↓

前条の規定どおりにエンドを変えなかった場合は、気が付き次第、速やかにエンドを交替し、スコアはそのままとする。

第14章 フォルト

第37条 (2) ラケットまたは身体が少しでも相手コートを侵したとき。ただし、シャトルを打ったあとのラケットが、フォロー気味に出てしまうことはやむをえない。また、ネット際（下）に落ちてきたシャトルを後衛に上げる時、ラケットの一部が出てしまうことはやむをえない。（オーバーネット）

↓

(2) ラケットまたは身体が少しでも相手コートを侵したとき。ただし、シャトルを打ったあとのラケットが、**出てしまうことはやむをえない**。また、ネット際（下）に落ちてきたシャトルを後衛に上げる時、ラケットの一部が出てしまうことはやむをえない。（オーバーネット）

日本ファミリーバドミントン協会公認審判員規定

第3章 主審及び副審の役割

第7条 (8)を追加

(8)タイムアップ制の場合、各試合および各セット毎にタイマーの動作を確認する。

日本ファミリーバドミントン協会公認審判員資格登録規定

第5章 手続き

第11条 「公認審判員資格登録申請書」を受理した本会は、資格登録を完了し、速やかに資格証を交付する。

↓

審判員資格検定会（受講料3,000円）を受験して合格した人は、直ちに所定の手続きにより、「公認審判員資格登録申請書」と下記の登録料を添えて本会に提出する。

(1) 第1種は、5,000円

(2) 第2種は、3,000円

(3) 第3種は、2,000円

「公認審判員資格登録申請書」を受理した本会は、資格登録を完了し、速やかに資格証を交付する。

審判員の任務と注意事項

主 審 ⑤を追加

タイムアップ制の場合、各試合および各セット毎にタイマーの動作を確認する。

副 審

① 主審からオーダー用紙・審判用紙・シャトルを受け取る。

↓

② 主審からオーダー用紙・審判用紙・シャトルを受け取る。

タイムアップ制の場合、主審と共にタイマーの動作を確認する。